

映文連 国際短編映像祭

日本アニメーションの祖

大藤信郎を継ぐもの

日本の短編アニメーション

その歩みと今

2017年11月30日(木)

AM10:30 開始 AM10:15 開場

ユーロライブ (渋谷区円山町 1-5)

前売券 800 円 / 当日券 1,000 円 / 学生券 500 円 / 1 日券 2,500 円

上映チケットは II~V まで 各回 1 回券 (チケットぴあにて 10/25 より発売) I は入場無料

主催 公益社団法人 映像文化製作者連盟

# 毎日映画コンクール 大藤信郎賞受賞 短編アニメーション作品 1962-2015

日本で最初に国産アニメーションが製作されてから、今年でちょうど100年。毎日映画コンクールには、日本アニメの先駆者とも言える大藤信郎が亡くなった翌1962年に、個性的で芸術的な価値のあるアニメーションに贈られる「大藤信郎賞」が設けられ、数多くのアニメ作家を輩出してきました。大藤信郎の代表作と「大藤信郎賞」歴代受賞作を上映し、1960年代から今日に至る短編アニメーションの系譜をたどるとともに、日本の短編アニメーションのこれからを展望する上映会です。

## I 先駆者・大藤信郎の軌跡

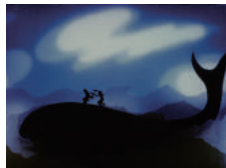
10:30-11:10 ※入場無料

日本アニメの先駆者とも言える大藤信郎とは、どんな作家であったのか。冒頭に大藤信郎の革新的な代表作3作品を上映し、作品と人物を紹介する。



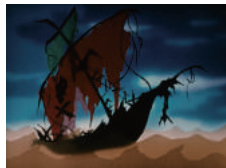
### 『こがねの花』

1929年  
17分



### 『くじら』

1953年  
9分  
(デジタル復元版)



### 『幽霊船』

1956年  
11分  
(デジタル復元版)

©映像文化製作者連盟  
復元：東京国立近代美術館フィルムセンター

## II 大藤賞 第一世代の作家たち

1960～70年代 11:30-13:10

大藤の遺志を受けて始まった毎日映画コンクールの大藤信郎賞。60年代には、その第1回受賞者である手塚治虫を始め、和田誠、久里洋二、岡本忠成、川本喜八郎など華々しい才能が輩出し、数々の革新的な作品が生まれた。大藤賞の始まりとこの時代の作品についての解説を交え、作品を上映する。

解説：和田敏克（東京造形大学准教授）



### 『ある街角の物語』

手塚治虫  
1962年  
38分



### 『殺人 MURDER!』

和田誠  
1964年  
10分



### 『二匹のサンマ』

久里洋二  
1967年  
13分



### 『ホーム・マイホーム』

エコー  
岡本忠成とその製作スタッフ  
1970年  
4分



### 『てんまのとらやん』

ビデオ東京  
(河野秋和、中村武雄)  
1971年  
17分



### 『鬼』

川本喜八郎  
1972年  
8分

©川本プロダクション

## III 大藤賞 第二世代の作家たち

1980～90年代 13:30-15:00

70年代は、古川タク、たむらしげるなど、グラフィック、イラストレーションの分野からも数々のアニメ作品が生まれた。良質な作家性を受け継ぐ珠玉の作品群を上映する。

ゲストトーク：古川タク、島村達雄（30分）



### 『スピード』

古川タク  
1980年  
5分

©古川タク



### 『注文の多い料理店』

岡本忠成  
川本喜八郎（監修）  
1991年  
19分

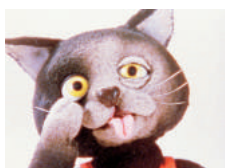
©桜映画社/エコー



### 『銀河の魚』

たむらしげる  
1993年  
23分

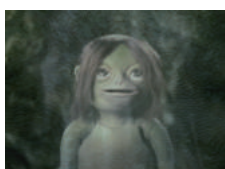
©1993 TAMURA SHIGERU INC.



### 『るすばん』

N&G プロダクション  
(長崎希)  
1996年  
4分

©1996 N&G プロダクション



### 『水の精・河童百図』

白組（島村達雄）  
1998年  
8分

©白組

## IV 世界と日本のアニメーター競作

15:30-17:10

国際的な評価から一歩進み、世界と日本の作家たちのコラボレーションという制作の試み。ガラスに油絵の具で描くオスカー受賞作、川本喜八郎企画・監修で芭蕉七部衆「冬の日」の連句を、世界最高峰のアニメーション作家たちが世代を越えて競作したアニメ作品を上映する。

解説：和田敏克



### 『老人と海』

アレクサンドル・ペドロフと  
技術スタッフ  
1999年  
23分

©WOWOW プラス/ NHK ENTERPRISES / DENTSU TEC



### 『冬の日』

川本喜八郎  
(企画・総合演出)  
2003年  
40分

©WOWOW プラス/電通テック

## V 2000年代以降のアニメーション

17:30-19:30

2000年以降、デジタルの普及により、短編アニメーション制作は更なるパーソナリティと、その息吹を吹き込む大学教育にも大きな変革をもたらした。若い世代、特に学生アニメーションの評価も広がりを見せる一方で、委託映画や巨匠による短編製作にも大きな活力を与えた。これからの短編アニメーション制作の方向性を、大藤賞歴代受賞作の上映とトークで読み解く。

トークセッション（60分）

ゲスト：古川タク、八代健志、小野ハナ、折笠良  
聞き手：和田敏克



### 『カフカ 田舎医者』

山村浩二  
2007年  
21分



### 『火要鎮』

大友克洋  
2012年  
13分



### 『澁みの騒ぎ』

小野ハナ  
2014年  
11分



### 『水準原点』

折笠良  
2015年  
7分



### 『眠れない夜の月』特別上映

八代健志  
太陽企画/エクスプローズ・ジャパン  
2015年  
26分

映文連 国際短編映像祭  
日本アニメーションの祖  
大藤信郎を継ぐもの  
日本の短編アニメーション  
その歩みと今



主催：公益社団法人 映像文化製作者連盟  
後援：毎日新聞社、日本アニメーション協会  
協力：(株)伊國屋書店、(株)WOWOW プラス  
東京国立近代美術館フィルムセンター  
助成：芸術文化振興基金